



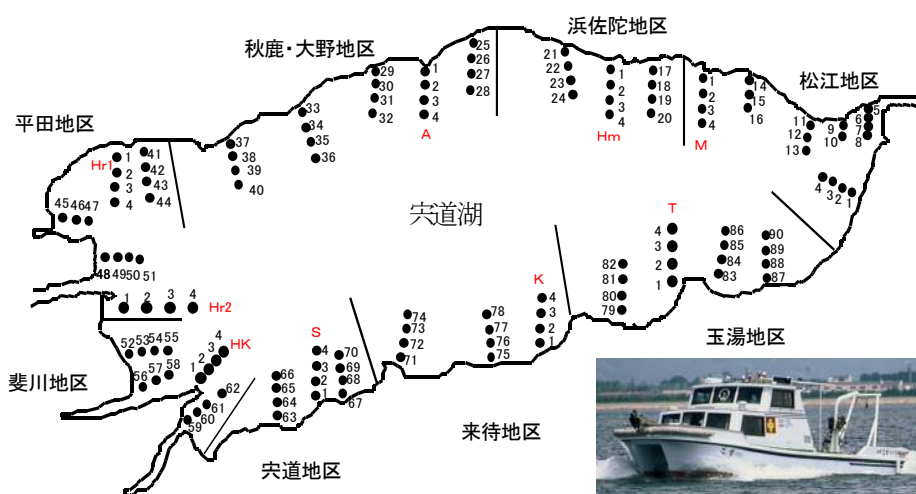
とびっくす No.89

(本誌はホームページでもご覧いただけます。http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/)

令和元年度春季ヤマトシジミ資源量調査結果

～ 昨年秋期から資源個数は増加、資源重量は減少～

水産技術センター内水面浅海部では、毎年6月(春季)と10月(秋季)に宍道湖に生息するヤマトシジミ(殻長 2 mm 以上)の資源量を推定するための調査を行っています。今年度の春季調査は6月4～6日に実施したので結果を報告します。



調査船「ごず」

図1 調査地点

調査方法

図1に示す調査定点(126ヶ所)において調査船「ごず」を使用し、スミス・マッキンタイヤ採泥器で各定点2回(面積 0.1 m²)、湖底の砂泥と一緒にヤマトシジミを採集しました。採集した砂泥サンプルは、フルイでサイズ別に選別し、生息密度と水深別の漁場面積から宍道湖全体の資源量を算出しました。

表1 ヤマトシジミの資源量

サイズ		重量 (トン)	個体数 (億個)
未成貝	殻長 12 mm 未満	5,536	871
成貝	殻長 12 mm 以上 17 mm 未満	5,595	61
	殻長 17 mm 以上(漁獲対象)	7,733	33
成貝合計		13,328	94
全資源量		18,864	965

調査結果および考察

令和元年春季のヤマトシジミの資源量(表1)は約1万9千トン、965億個が生息していると推定されました(平成30年秋期は約3万2千トン、536億個)。平成30年秋季調査と比べ重量で約1万3千トン減少しましたが、個体数は約430億個増加しています。

内訳をみると、殻長12mm未満の未成貝は約5千5百トン、871億個で、平成30年秋から約700トン、約530億個増加しています。一方、12mm以上の成貝は、約1万3千トン、94億個で、そのうち、漁獲対象である殻長17mm以上は、約8千トン、33億個でした。これは、平成15年に詳細な資源量調査を開始して以降の、過去16年の春季資源量の平均値(約1万7千トン)の47%にあたります。

平成 30 年秋季の前回調査で、資源量は高水温や餌不足、水草類の影響等により約 3 万 2 千トンに減少したところですが、宍道湖では例年、前年秋から春にかけてシジミの資源量が減少する傾向にあるため、令和元年春季では、さらに減少した状況となっています。

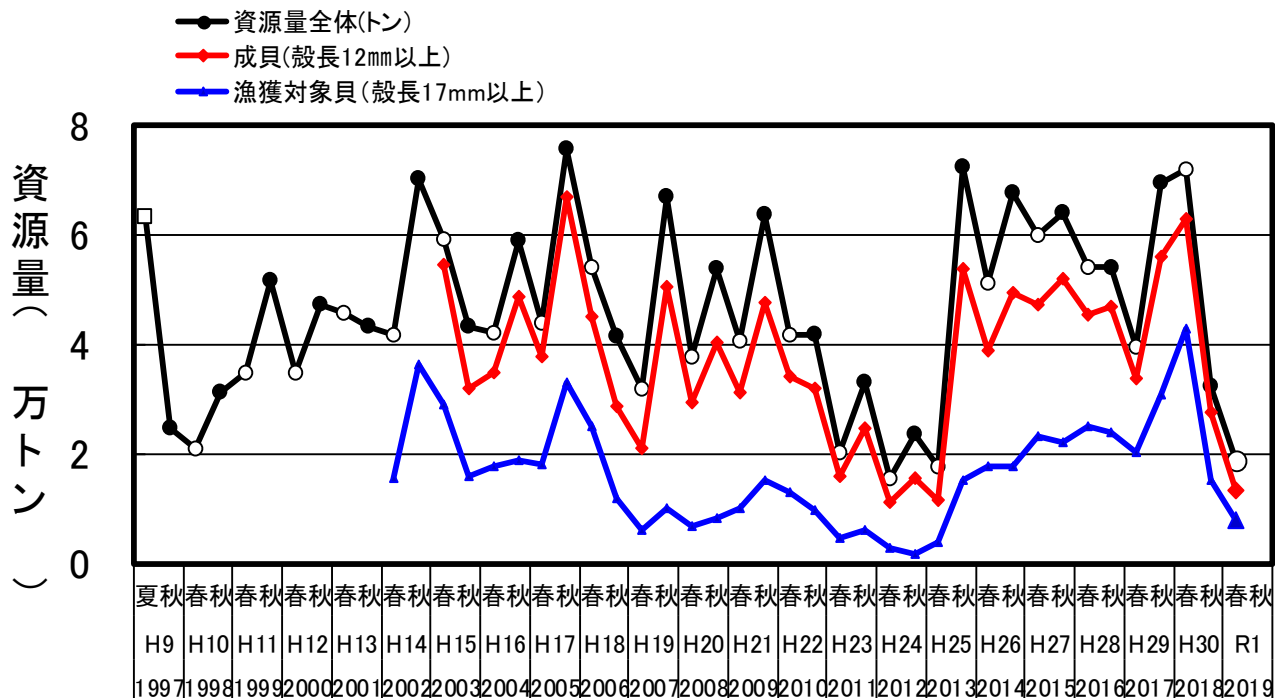


図 2 宍道湖のヤマトシジミ資源量の推移

今後の見通し

来年以降に漁獲対象となる殻長 5 mm 前後の未成員が非常に多いため、今後の資源量の回復が期待される一方で、本年後半に漁獲対象となる殻長 12 mm 以上 17 mm 未満の成員や、漁獲対象となる殻長 17 mm 以上の成員が少なくなっています(図3)。

これらのことから、今後は殻長 17mm 以上の漁獲対象資源を計画的に利用していくほか、資源の大きい未成員を保護するため、シジミ保護区や成育場である浅場の水草除去などの管理に取り組むことが必要と考えられます。

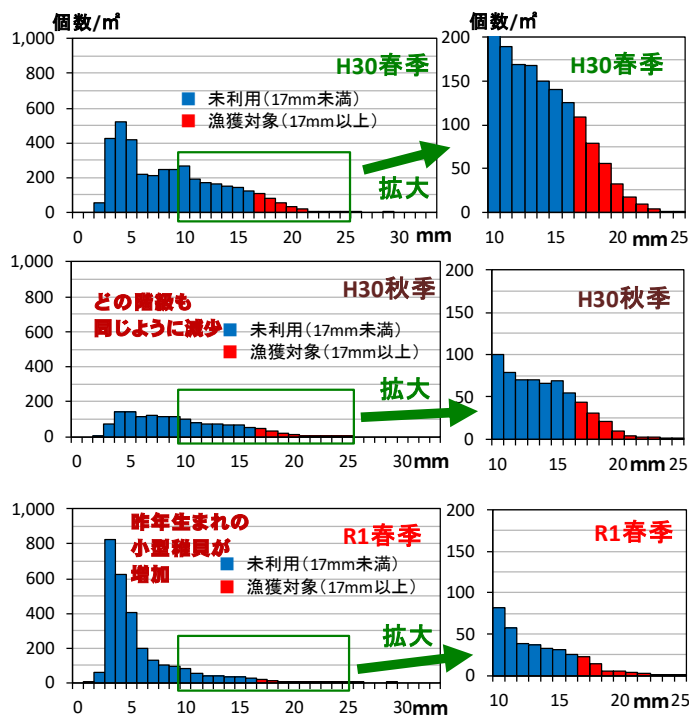


図 3 宍道湖全体のヤマトシジミの殻長組成
(H30 年春季～R1 年春季、全調査地点の平均値)

島根県水産技術センター
島根県浜田市瀬戸ヶ島町 25-1
TEL:(0855)22-1720 FAX:(0855)23-2079
ホームページ: <http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/>
E-mail: suigi@pref.shimane.lg.jp